



ひゅうまん(入所)のホープ。
アイドルにしてスイーツ男
子。ジャムパン片手にカフェ・
オレ飲めば、心も弾みます。

2023.7.1 No.69

ひゅうまん

～ふつうをささえる～



特集

利用者中心の支援とは

～障害者虐待防止法から10年

対話から始まる法人の取り組み(後編)～

編集／発行 社会福祉法人 弘徳学園 TEL(086)272-0625

〒703-8283 岡山市中区赤坂南新町 6-1 FAX(086)272-5751



会話から生まれるもの

ねっこをつくる委員会メンバー

森本 陽子



特集『利用者中心の支援とは〜障害者虐待防止法から10年 対話から始まる法人の取り組み』の後編をお送りします。

前回は施行開始から「今」にかけての変化、利用者を中心とした支援について触れていきました。今号では、現場スタッフが大切にしていること、虐待防止の観点から工夫していることに焦点を当てて紹介していきます！

未然に防ぐために

昨今、福祉や教育現場での虐待のニュースを目にする事が増えています。自分が所属する入所施設で考えると、生活の間であるという特性上、第三者の目が入りにくく、閉鎖的な環境になりがちなこと。また、ローテーションでの勤務がゆえに、スタッフ間の情報伝達が上手くいかず、利用者支援に偏りが生じ易い環境があり、虐待に繋がる可能性があるのではないかと考えています。

そこで、ねっこをつくる委員会ではまず、情報伝達の不足を解消しようとスタッフ同士が話すためのきっかけ作りとなるように、2種類のシートを作り、自分たちの支援がどうだったのかなど、その日のうちにお互いが意見を出し合う機会を設けました。

ひとつ目が、『振り返しシート』です。「命令口調をしていないか」「急かす言葉かけをしていないか」「スタッフ都合で利用者の動きを止めていないか」「スタッフの機嫌を理由に関わりや返事が雑になっていないか」「威圧的な態度をとっていないか」などを

項目に挙げ、勤務終了前に振り返りが出来るように作成しました。

ひとりの利用者に対してスタッフの支援にばらつきがある場合、いつも同じスタッフの時に問題となる行動が生じることがあり、対応するスタッフの焦りは、更なる不安行動を引き起こし、適切な支援が出来なくなってしまうこともあります。これではチーム支援は叶いません。

そんな時にシートを活用することで、「(利用者の方は)なんでこうするんだろう?」「自分だったらどう関わるだろう?」といった疑問を「気になる支援」として、他のスタッフにも客観的に見てもらう事ができます。意見を交わすことで、新たな気づきが生まれ、自分の意識・行動を変えることにつながります。虐待につながるかもしれないような支援・関わりも、こうした取り組みを続けていく事で未然に防ぐことができるのではないかと考えています。

小さな発見

ふたつ目が『にこりほっと』です。



日々の生活の中に、「今日はこんな嬉しい事があったな」と発見がある様に、利用者との間にも何気ない小さな発見があります。具体的には、会話の中から生まれる笑顔や、片付けをしていると「やろうか!」と手伝ってくれる心遣い、他の誰かが重たい物を運んでいると手を貸して一緒に運んであげるさりげない優しさ。初めて見る表情や行動など、そんな様々な発見を他の皆とも共有出来るようにしたシートです。(これは一般的にリスクアクセスメントの時に使われる『ヒヤリハット』になぞらえています)

普段の何気ない出来事も形に残すことで、その場にいなかったスタッフとも共有ができ、一人ひとりの持つ新たな一面を知り、一緒に笑顔になれる。そんな素敵なツールとなっています。

笑顔の先に

このように『振り返りシート』と『にこりほっと』という異なる側面から成り立つ二つのシートを使った取り組みは、自分達の支援が間違っていないか互いに意識し合い、スタッフ間で

の利用者支援に関する会話が増え、日々の支援を振り返るのにとっても役立つと思っています。

「なんでもうまくいかないだろう」と偏った考えに陥り、悩み苦しむこともある一方で、利用者との心の通い合った瞬間のあたたかい気持ちに救われます。日々の疑問や悩みも、日常に溢れるステキな発見も、スタッフ同士で共有できたなら、自然とチームワークが生まれ、より良い方向に進んでいくのではないのでしょうか。

こうして多面的に利用者を見る事で私達スタッフは利用者を考え会話する機会が増え、利用者は会話が増える事で日々の関わりが充実するといってお互いにとって良い関係になると考えています。そうした積み重ねこそが、利用者もスタッフも笑顔になれる、心地良い空間づくりには欠かせない大切なことだと感じています。



適切な関係とは

でんでん宣言メンバー 瀬崎 博之

でんでんでは、事業所独自に「でんでん宣言」という行動規範をたてています。毎年少人数ででんでん宣言のチームを作り、研修や定期的な行動の振り返り案を考え運用しています。

対等とは

まず、互いに認め合える関係性になる為に、対等であるべきなのはと考えています。では、対等とは何でしょうか。辞典で調べると、「相対する双方の間に優劣・高下などの差がないこと」だと述べられていきます。私たちの仕事において、支援員はサービスを提供する立場、利用者は受け取る立場になります。この2つの立場は送り手と受け手で差が付き易いものです。例えば、サービスを提供する上で、個々の意思を大切にしたいが、集団生活のバランス、安全性を考え、行動を変えてもらいたいと考えた時。そういった場面では、

「ジェスチャー」「表情」「動き」と様々な方法で私たちに意思を伝えてくれています。その中で、お互いの立場に優劣・高下などの差がないようにするために、お互いに意思を伝え、理解し合える事が重要だと思います。

規範から宣言へ
私たちおかやま共育・共働センターでんでんは、開所当初より、「ふつうをささえる」という弘徳学園の理念を軸に作られた行動規範（理念を守る為のルール）をでんでんに添った形に変え、新たな「でんでん宣言」という誓いを立て、利用者の人権を尊重し、虐待防止に努めています。

という固定観念にとらわれるのではなく、利用者の「言動」を「大切にしたい」「一緒に考え、可能性に挑戦したい」と考えられるようになりました。

宣言の内容としては、「利用者スタッフは対等であり続けます」「共育（共に育ち、幸せになる）・共働（共に誇りを持てる）を目標とします」があります。この2本柱を軸に私たちは、一方的な関係にならない、互いに認め合える関係性を目指しています。

もってもらいたい理由を探しては、職員都合で物事を進めがちです。様々な場面で職員優位に物事を考えてしまう可能性がある事を認識しておく必要があります。

初めの心構え

でんでんの利用者は、「言葉」「文

その際に重要なことは、表出された意思をそのまま捉える事はもちろんですが、「もしかしたら」と、自分自身に問いかけていくことではないでしょうか。人の笑顔を見た時に他者は喜んでいると受け取ります。ですが、本当は悲しいのかもしれないし、怖いのかもしれません。自分（職員）なりの解釈が先行することで相手（利用者）が不在になってしまつては本末転倒です。表面的な部分に捉われるのではなく、心の奥底にある意思に気付こうとすること。そして出来ればですが、その意思を引き出し、一緒に形にしていくことが必要なのではないと考えています。

ですが、これが非常に難しい。

なぜなら私たちは人間だからです。体調、思考、環境、気分等、様々な要因で急遽意思が変わる時がある。何かを選んでもらったとしても、次の瞬間には変わってしまっているのかもしれない。意思を違った形で捉えてしまう可能性が、常にあるということです。

意思を知る為には

一つ目は、利用者本人が理解できるように内容を伝えられる事。またはその方法を知っておく事。二つ目は、利用者の意思表出の方法を職員が知っておく事。三つ目は、利用者が意見を伝えられる。または、選択できる機会がある事。

それらを知る為には、その方の「これまでの歴史」「人柄」「特性」「家族からの意見」「選択する時の手段」「安心して伝えられる人」「安心できる環境」等の情報が必要であり、それを私たちが整理し、理解する必要があります。

思い込みになってない？

私たち支援員は日々利用者と過ごし、意思疎通を図っています。長年共に過ごしていくと情報や知識も増えてきて、「〇〇さんは〇〇ですよ」という言葉がふいに出てくるようになります。ある日、ご家族から「あなたはこの子の事がわかるのね。私は未だにわからないのよ」「それは本人から発言があったことかな？あなたが思った事ではないかな？」と本人の思いを代弁してくださる機会がありました。その時に「ハッ」とし、本当に本人の意思なのか、思い込みではないのかと感じた事があります。先ほどの話にも繋がりますが、過ごした時間が長くなればなるほど、「〇〇さんを理解している」と思いがちです。その事自体は悪くないかもしれませんが、思い込みから間違った解釈をする可能性があることには気を付けたいと思います。

それぞれの関係性

お互いの意思疎通が成り立ち、利用者の意思を大切にできる事が対等に近い関係性に感じますが、友人のように食事やスポーツ観戦などに遊びにいける関係性はどうなのか。利用者が「嫌です」と言った時にそれが一般的には間違っ



ていることでも職員が認めることができる関係性なのか。考えれば、考えるほど、対等な関係性の答えは一つではないのだろうと思えますし、一人ひとり考え方が違うのだからそれぞれに合った関係性があるのではないかと思っています。日々、スタッフ一同で「気づき」と「確認」の繰り返しを行っています。

支援員として、人間として

私たちは人間であり、一人ひとりに違い（ふつう）があります。それを共有する難しさはありますが、違いを楽しみながらその人と関われる喜びもあります。一人ひとりのふつうを認め合い、理解し合う事が対等な関係性により近いのかもしれない。これからも対等な関係性とは何かを考え続けていきながら利用者の人権を尊重し、虐待防止に努めていきたいと思えます。

TYUBOU DESUYO

ふ え きりゅうこう 『不易流行』



編集のスタッフからいただいた今回のテーマは、「食事提供時に大切にしている事」。なるほどなるほど。「良い子は見ちゃダメな大人なこと」がテーマだったらどうしよう（どちらかと言えばそっちの方が得意）とか、あるいは「学園の裏的な機密事項」に関する事だったらどうしようなんて思ってビクビクしてたんだけど、どうやら杞憂だったみたい。うん。そっちね。テーマとしてはちょっと硬い気もするけど、まさに厨房仕事の「根幹」の部分。「食事提供時に大切にしている事」を一言でいうなら『安全でおいしい料理を出す』ことかな。

なんか言葉にすると月並みなので、「風林火山」みたいなカッコイイのいないかなあ〜と思って考えてみたけど、結局これ以上の言葉は見つからなかった。

“安全”は目には見えない小さな敵（細菌とかウィルスとか）や、厨房スタッフの心の中の悪魔（手洗いめんどくさいとかちょっとくらい汚れててもいいジャン♪みたいな弱いところ）との戦いでもある。自身の体調管理からはじまり、手洗いや温度管理・加熱殺菌など挙げればほんとにキリがない。厨房スタッフも皆さんと同じ食事を食べているので、なおさら自分たちが食べたくないような食事は絶対に出せない。

“おいしい”の中にも様々な要素がある。味が良くて70点。盛り付けや組み合わせ・バランスもピタッと合って90点。そこに食べやすい大きさとか、飲み込みやすい形状、そして食べる雰囲気もカチッと合って97点。最後に個人的な嗜好が合ってやっと100点満点。

タイトルの『不易流行』は、変わらないためには常に変わっていくことが必要という、禅問答のような言葉。私たち厨房スタッフは、『安全でおいしい料理』の提供を変わらず続けていくために、調理法や味付け、衛生管理の方法・作業の効率化などをアップデートしながら常に変えていく。そんなことを大切にお仕事しています。



岡 正信/おか まさのぶ

弘徳学園に勤めて30年。栄養士として法人の「食」を支え続ける唯一無二の存在。ひゅうまん Facebookでも日々、発信中。



毎日タケシタ

第3話

『TAKE OFF』

今回は、僕の日常を紹介します。

普段は、音楽を聴いたり YouTube やアニメやドラマを見たりして過ごしています。

音楽は特に最新の邦楽や洋楽、演歌などをよく聞いています。

YouTube は特にキャンプ(車中泊)やガジェット系(パソコンや家電)、車系(エンジン周り、カー用品取り付け)や美容系やファミリー系の動画などをよく見ています。

アニメは、干物妹!うまるちゃん、ゆるキャン△、のんのんびよりなど、少しほのぼのしたアニメをよく見ています。最新のアニメも見たりします。

ゆるキャン△の好きなのはゆるキャン△ シーズン1の1話の始まりから、山が広がって景色が良くて何も考えずに、BGM とそのストーリーに引き込まれます。特に女の子が1人できれいな景色を求めて自転車をこいでキャンプ場に行っていて、初めからまったりテントの組み立て、薪割りや火起こしなど、準備をしているところから、僕はドキドキ、わくわくしながら観ています。僕は、ゆるキャン△の雰囲気大好きです。

ドラマはラブストーリーや学園ドラマや医療系のドラマは絶対見ます。最新のドラマもちろん見ます。

家での過ごし方は、こんな感じです。

後は映画を見に行ったり、水汲みに行ったり、髪を切りにも行きます。

皆さんはどんな日常を過ごしていますか？



イベント情報



○開催期間 .. 6月9日(金) ~ 7月7日(金)
 ※水曜日は休館日
 となっております。
 ○場 所 .. 岡山市立福田公民館
 岡山市南区古新田
 一一八六

でんでん ロビー展
 岡山市立福田公民館にて、おかやま共育・共働センターでんでん主催の「ロビー展」が開催されます。利用者の方々と作った作品の紹介や8月に行う「でんでん祭り」と連動した地域参加型展示を行います。ぜひ、お立ち寄りご参加ください。



ご寄付
 ありがとうございます

国際ソロプチニスト岡山様
 大森美子様 上生院様
 梶谷福祉基金様
 中村富士子様 赤木裕子様
 順不同

○開催日時 .. 10月8日(日)
 10時 ~ 15時
 ○場 所 .. 網浜公園
 ※時間は変更の恐れがあります。FBにて準備の様子等含めて、随時お知らせいたしますので、そちらにてご確認ください。

JOYJOYフェスタ
 弘徳学園主催のJOYJOYフェスタを開催します。各種イベントに屋台と色々な企画を考えています！ぜひ、ご来場ください。

○開催日時 .. 8月5日(土) 17時 ~ 20時
 ※少雨決行
 ○場 所 .. おかやま共育・共働センター
 でんでん 駐車場
 岡山市南区古新田九五六一

でんでん夏まつり
 おかやま共育・共働センターでんでん主催の夏祭りを開催します。作品展示の他、ステージや屋台も用意しています。皆さんのお越しをお待ちしております。



編集後記

ホームページには、弘徳学園の概要、各事業所の紹介、そして広報誌のバックナンバー(白黒ページもカラーで掲載)などの情報が盛り沢山。また、各事業所のフェイスブックともリンクしていますので、お時間のある時にぜひ、一度ご覧下さい。
 (<http://www.koutoku.net/>)



新型コロナウイルス感染症が5月8日から「5類感染症」になりました。イベントの規制も緩和されています。弘徳学園でも各事業所等でお祭りやイベントを開催する予定です。今まで出来なかった交流の機会が増えるようになったのはとても喜ばしく思います。
 世間一般のライブでも今まで規制により、なくなっていた声出しが、ついに、解禁されました。コロナ以前より声を出しても良いのかは場所次第ですが、お家のDVDで声出しをしていた日々が終わりを告げる訳です。発声練習をしながらライブ開催発表に向けていきたいと思えます。

守屋 美奈子